

平成 17 年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

長尾 研究室	氏 名	成 田 一 生
卒業研究題目	個人用知的移動体における体験共有のための コミュニケーション支援システムに関する研究	

研究目的・背景

個人用知的移動体 AT(Attentive Townvehicle) は、搭乗者である人間や、自分を取り巻く環境に適応し、個体間通信によって協調的に動作可能な個人用の乗り物である。AT に乗り込むことによって、移動に伴う環境の変化に応じて、暗黙的な情報処理を行うことができる。これにより、実世界状況や文脈に合わせて、その時点で最適な情報サービスを受けることができる。我々は、AT を新たなコミュニケーションツールとして捉え、実世界状況に依存した情報を利用して体験記録を作成し、共有・再利用するシステムの構築を目指している。他者の体験記録を閲覧することにより、自分の体験に他者の経験を活かすことができると考えられる。

本研究では、体験記録の共有に SNS (Social Networking Service) の仕組みを取り入れることで、ネットワーク上のコミュニケーションと実世界におけるコミュニケーションを両面から支援するシステムを構築した。

システム概要

以下の図に本システムの動作画面を示す。本システムは友達リストやコミュニティといった、SNS における一般的な機能の他に、体験記録を共有する機能を持っている。体験記録は体験日記という形で閲覧でき、閲覧者は他者の体験日記にコメントや 5 段階評価を行うことができる。システムは、体験日記への評価に基づいて、ユーザの嗜好を推定し、それに基づいたサービスを提供する。例えば SNS 上において、趣味の似たユーザを自動的に発見する。

また、AT に搭乗した場合の実世界活動において、ユーザは自分と嗜好の近いユーザを募り、「その時」「その場」で活動を共にするグループを形成できる。本研究ではこれをアドホックコミュニティと呼んでいる。ユーザはアドホックコミュニティを作成したり、参加したりすることができる。本システムは、近隣に存在するアドホックコミュニティをユーザに教え、またその参加者たちとユーザが「気が合う」かどうかを提示する。これにより、ユーザは気の合うアドホックコミュニティを見つけ出し、参加することができる。このように本システムは、SNS 上のコミュニケーションと実世界におけるコミュニケーションの双方を支援する。



図 システムの動作画面